中高生の生活実態に関するアンケート調査
（ヤングケアラー実態調査）結果【概要版】

令和４年３月　和歌山県福祉保健部

和歌山県では、県内に潜在的に存在すると考えられるヤングケアラー（本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子供）の実態を把握し、必要な支援策を検討するため、「中高生の生活実態に関するアンケート調査」を実施しました。その概要は、以下のとおりです。

なお、詳細な調査結果については、県福祉保健総務課ホームページをご覧ください。

https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040100/young-carer.html

（「和歌山県ヤングケアラー」で検索）

調査の概要

- ○ 調査対象者　県内の中学校及び高等学校の２年生　１５，５９９人
- ○ 調査期間　令和３年１０月～１１月
- ○ 調査方法　無記名式アンケート（調査票を各学校に配布し、教室にて回答）
- ○ 回答数　１４，２３７人
- ○ 回収率　９１．３％　（＝回答数／調査対象者数）

主な調査項目

- ・家族のケアの経験
- ・ケアの対象者・内容
- ・悩みごとの相談経験
- ・ケアの頻度・所要時間
- ・自身の生活への影響
- ・ヤングケアラーに係る自己認識

など

調査結果のポイント

○ **家族のケアをしているのは、全回答者の４％程度**（626 人/14,237 人）

- ・中学校２年生　4.7%（344 人/7,309 人）＜ 全国調査では 5.7% ＞
- ・全日制高校２年生　3.9%（265 人/6,805 人）＜ 全国調査では 4.1% ＞
- ・定時制高校２年生相当　13.8%（ 17 人/　123 人）＜ 全国調査では 8.5% ＞

○ ケアを必要とする家族は、高齢層（祖父母）より若年層（きょうだい）が多い

○ **ストレスなど生活への影響を感じているのは、家族のケアをしている回答者の約４分の１**（164 人/626 人）で、**ケアに要する１日あたりの時間が長いほど、影響を感じる傾向**あり　※ 全回答者に占める割合は 1.2%（164 人/14,237 人）

○ 家族のケアをしている回答者のうち、ケアに関する悩みごとの相談経験があるのは１割強（75 人/626 人）で、相談先は「家族」「友人」「学校の先生」の順に多い

○ 家族のケアをしている回答者における「ケア」の認識には個人差あり

- ・自身がヤングケアラーにあてはまるか「わからない」が過半数（353 人/626 人）
- ・**「あてはまる」は１割強**（83 人/626 人）　※ 全回答者に占める割合は 0.6%（83 人/14,237 人）

（「ヤングケアラー」は現時点で確立された定義がなく、「ケア」の認識には個人差が認められたが、生活への影響等に係る回答を踏まえると、**全回答者の１％程度は、身体的・精神的な負荷を伴うケアを日常的に担っている可能性がある**と考えられる）

【注】「全国調査」とは、国において令和２年度に実施された「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」をいう

・・・ 主な調査結果については、次ページ以降をご覧ください。・・・

「中高生の生活実態に関するアンケート調査」
（ヤングケアラー実態調査）の主な結果

本資料に示すグラフと、その見方については以下のとおり

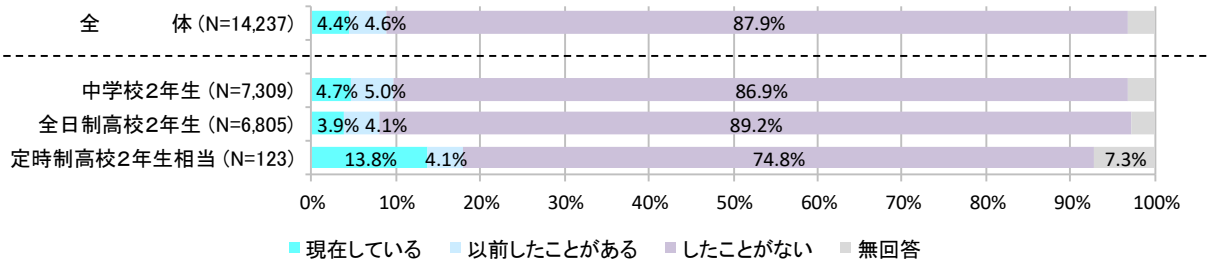
調査項目	標本数	
（1）家族のケアをした経験	全回答者	14,237 人
（2）家族のケアの頻度・所要時間	家族のケアをしている回答者	626 人
（3）ケアを必要とする家族	① 家族のケアをしている回答者 ② 家族のケアをしている回答者のうち、ケア頻度が「週３回以上」かつ平日１日あたりのケア所要時間が「２時間以上」の回答者（＝より日常的にケアをしている層） （上記①②で傾向を比較）	① 626 人 ② 110 人
（4）ケアを必要とする家族の課題		
（5）ケアの内容		
（6）一緒にケアをする人の有無		
（7）生活への影響		
（8）ケアに関する悩みの相談経験		
（9）「ヤングケアラー」に係る自己認識	家族のケアをしている回答者	626 人
(10)「ヤングケアラー」の認知度	全回答者	14,237 人

○ 各設問の標本数（回答者数）は、グラフ中に「Ｎ＝●●」という形で表示
○ 単数回答のグラフ中、5.0%未満の数値は、表示が煩雑となるため非表示としている場合がある
○ グラフの解説中「全国調査」とは、国において令和２年度に実施された「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」（令和２年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業）をいう
○ 家族のケアの実態を掘り下げるため、家族のケアをしている回答者（626 人）のうち、ケア頻度が週３回以上で、かつ、平日１日あたりのケア所要時間が２時間以上の回答者（110 人）を「より日常的にケアをしている層」（アンケートの全回答者（14,237 人）に占める割合は 0.8%）として抽出し、家族のケアをしている回答者全体との間で傾向を比較

＊　＊　＊　＊　＊

（１）家族のケアをした経験

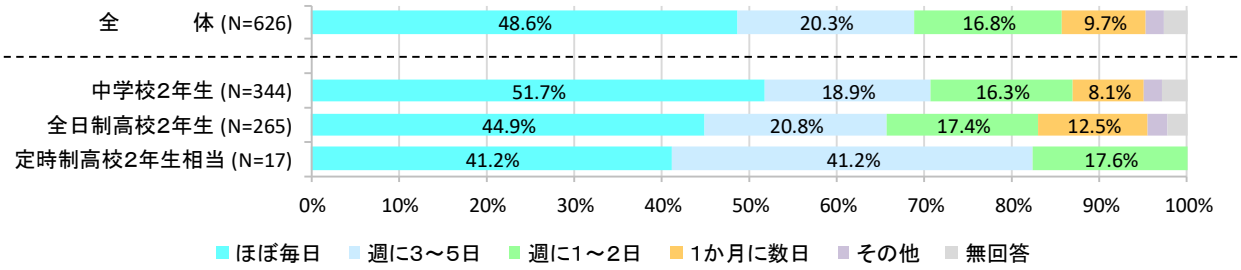
・ 家族のケアを「現在している」との回答は、全回答者の 4.4%
・ 「現在している」を学校種別に見ると、中学校２年生で 4.7%、全日制高校２年生で 3.9%、定時制高校２年生相当で 13.8% （全国調査では、中学校２年生 5.7%、全日制高校２年生 4.1%、定時制高校２年生相当 8.5%）
・ 「以前したことがある」との回答も、全体では「現在している」と同程度の割合



（２）家族のケアの頻度・所要時間

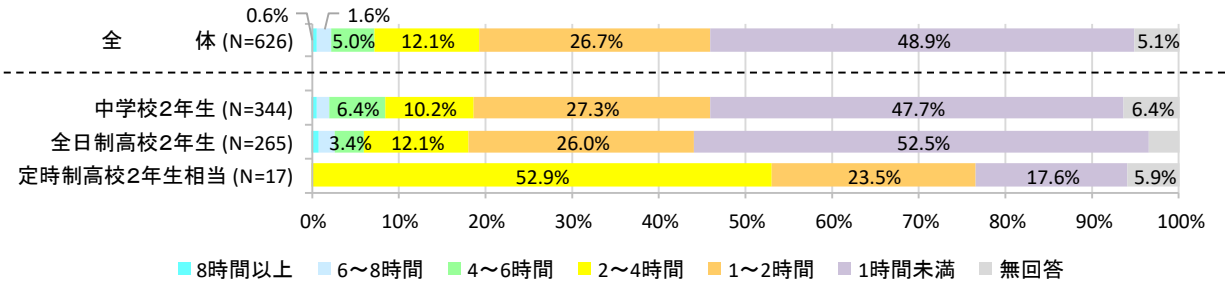
■ 家族のケアの頻度

- 家族のケアの頻度は、いずれの学校種も「ほぼ毎日」の割合が高い（全国調査と同じ傾向）
- 「ほぼ毎日」に「週３～５日」を加えると、回答者全体の７割近くを占め、定時制高校に限れば、さらに高い割合となっている



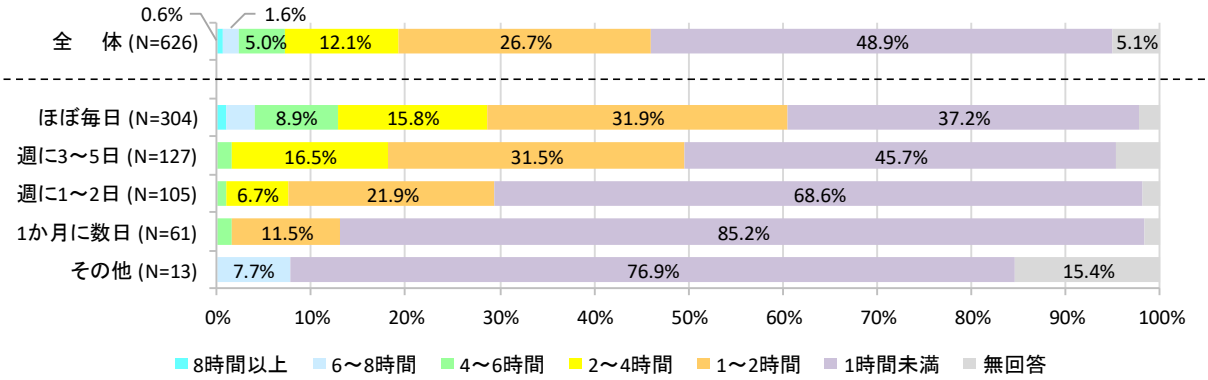
■ 家族のケアに要する時間（平日１日あたり）

- 家族のケアに要する時間（平日１日あたり）は、全体の約半数が「１時間未満」と回答し、「１～２時間」もあわせると、約 75%に達する
- 中学校２年生と全日制高校２年生では、回答者全体の場合と同様の傾向を示したが、定時制高校生２年生相当では、「１時間未満」「１～２時間」の割合が減少（あわせて約 40%）
- 中学校２年生および全日制高校２年生においては、４時間を超えるようなケースも見受けられる



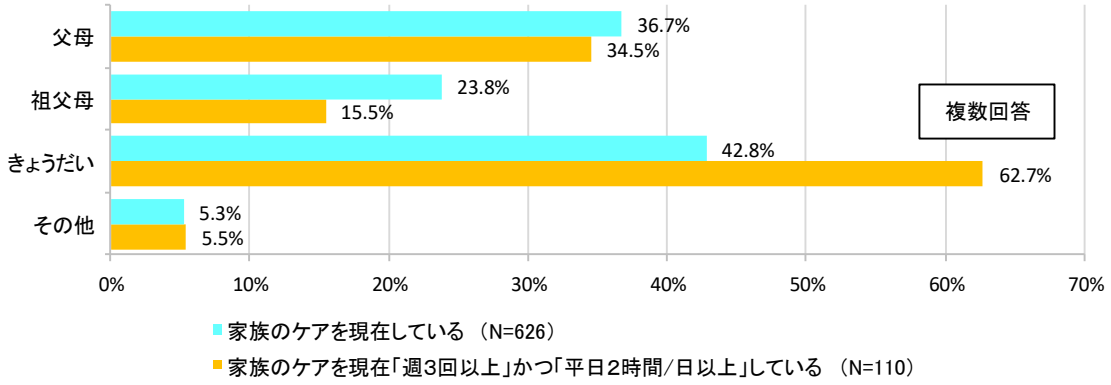
■ 家族のケアの頻度と、ケアに要する時間（平日１日あたり）との関連性

- ケアの頻度が高い回答者ほど、１日あたりのケアの所要時間も長い傾向あり



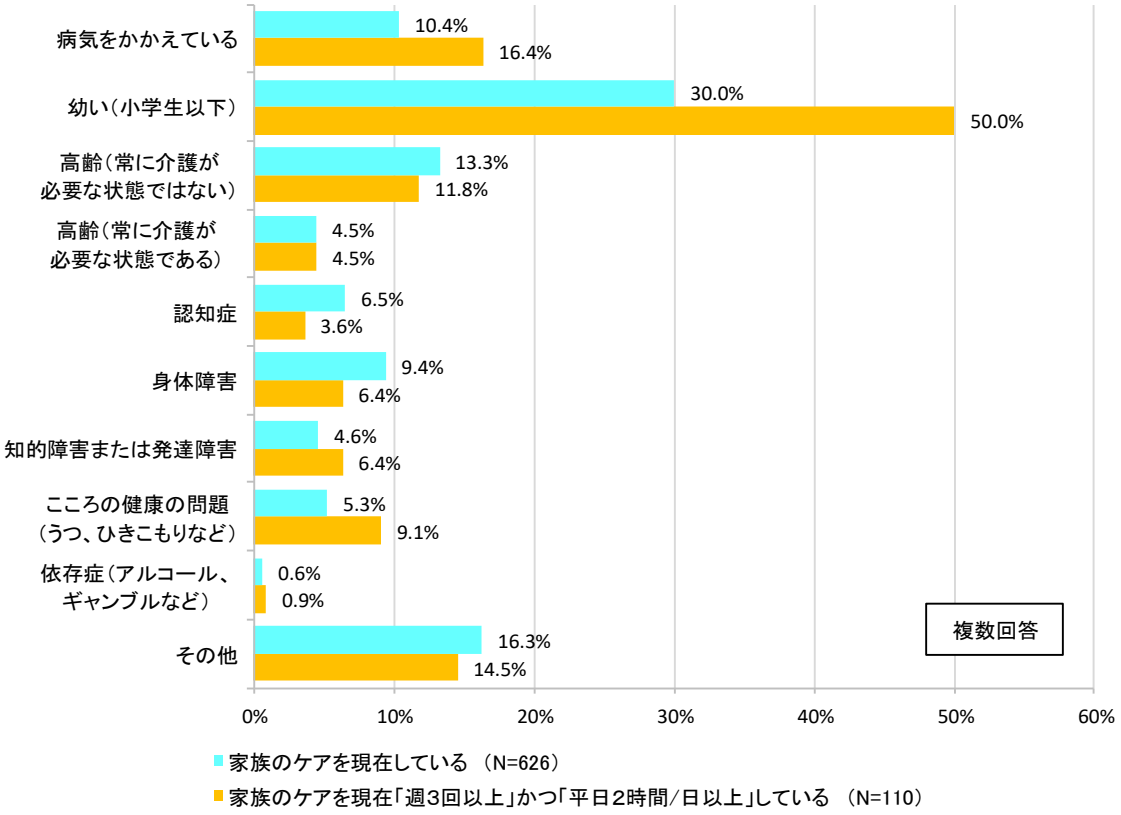
（３）ケアを必要とする家族

- ケアを必要とする家族は、「きょうだい」が最も多い（全国調査と同じ傾向）
- 「祖父母」については、「きょうだい」の５割強に留まる
- より日常的にケアをしている層に絞ると、「父母」「祖父母」の割合に減少が見られる一方、「きょうだい」の割合が大幅に増加している



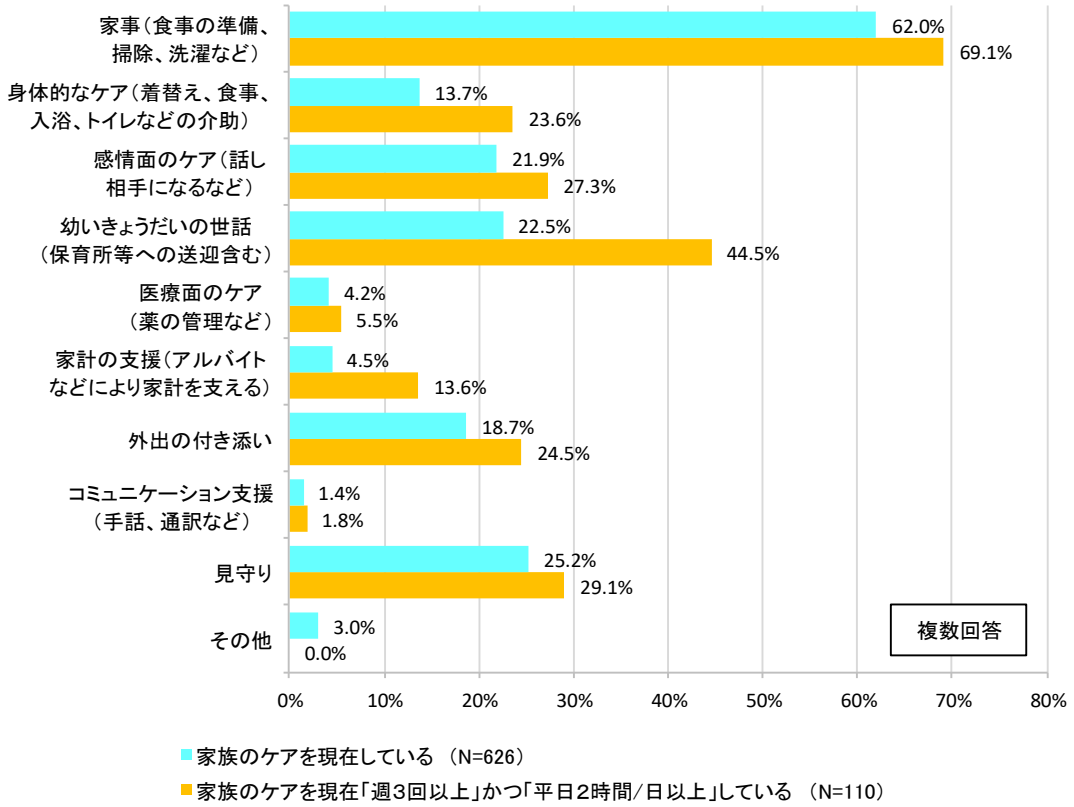
（４）ケアを必要とする家族の課題

- ケアを必要とする家族の課題は、「幼い」が最も多い
- より日常的にケアをしている層に絞ると、「幼い」の割合がさらに増加しており、ケアを必要とする家族で「きょうだい」の割合が高いことからも、弟や妹の世話をしているケースの多いことが窺える



（５）ケアの内容

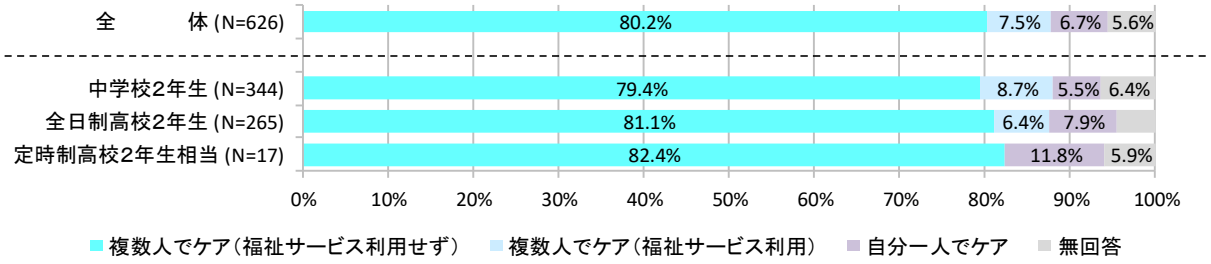
- ケアの内容としては、「家事」が最も多い
- より日常的にケアをしている層に絞ると、「幼いきょうだいの世話」「身体的なケア」「家計の支援」の割合の増加が目立つ



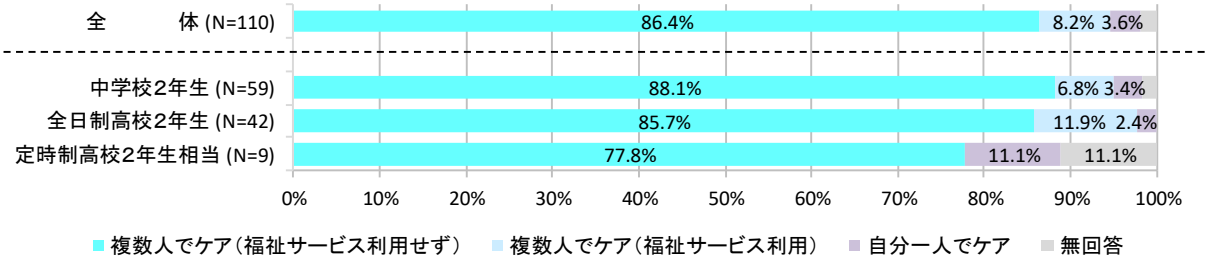
（６）一緒にケアをする人の有無

- 本人と一緒に家族のケアをする人の有無に関して、「複数人でケア（福祉サービス利用せず）」「複数人でケア（福祉サービス利用）」「自分一人でケア」の三つに類型化し分析
- 家族や福祉サービス事業者などと複数人でケアを行っているケースが大半であるが、回答者単独でケアを行っているケースも１割弱あり
- より日常的にケアをしている層に絞った場合、「自分一人でケア」の割合がやや少なくなっている一方、福祉サービスを利用する割合は、全体として微増に留まっている

■ 一緒にケアをする人の有無①（家族のケアをしている層全体）



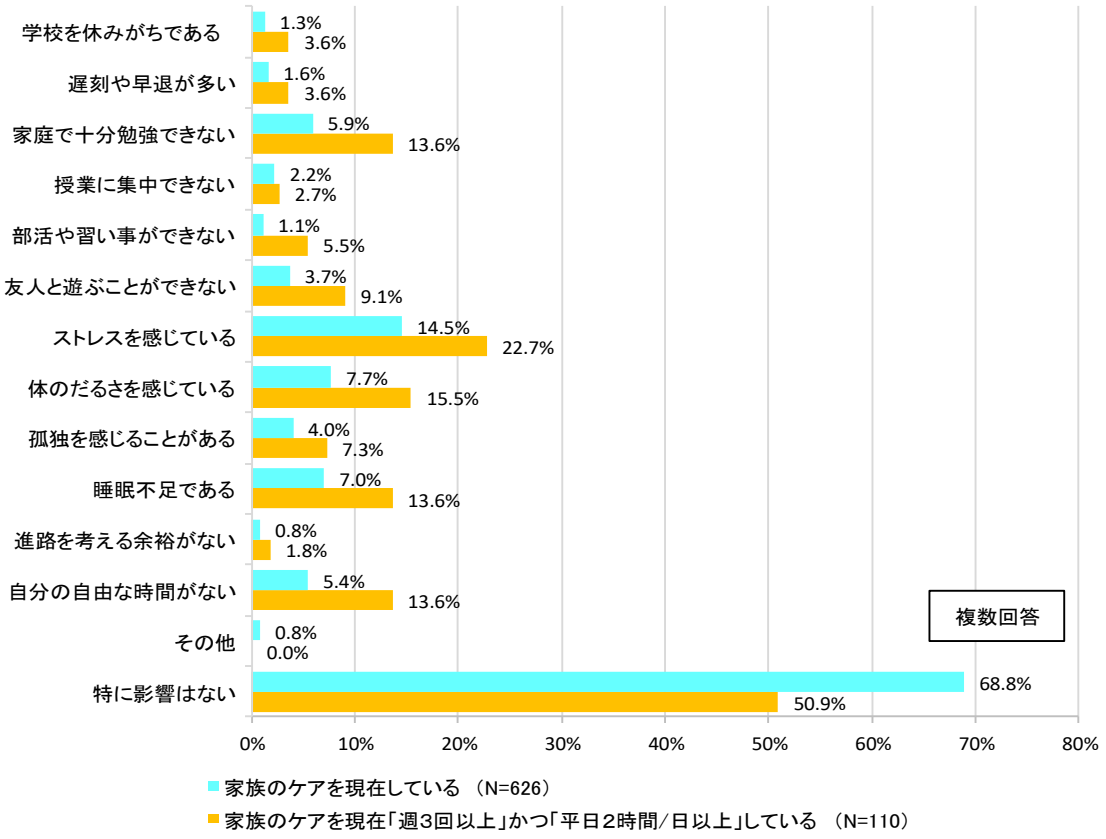
■ 一緒にケアをする人の有無②（より日常的にケアをしている層）



（７）生活への影響

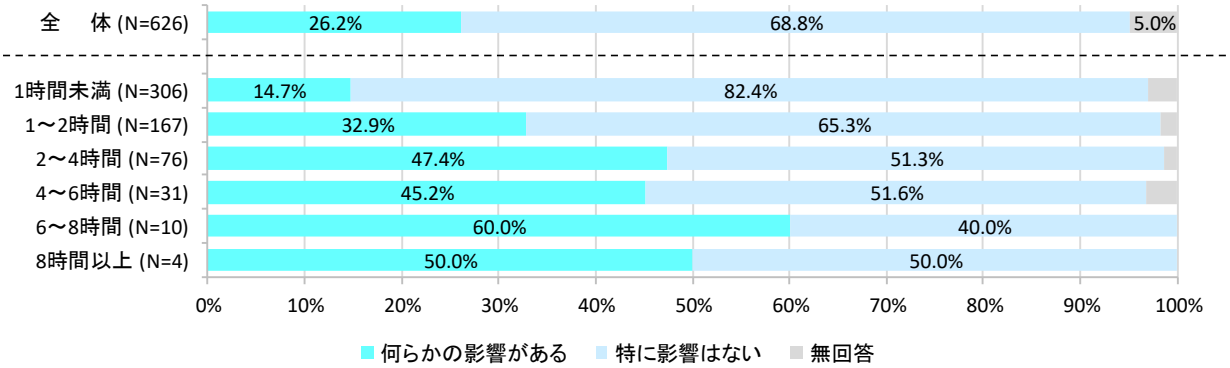
■ 生活への影響（内容別）

- 家族のケアに伴う自身の生活への影響については、「特に影響はない」が最も多いが、それを除くと、「ストレス」、「体のだるさ」、「睡眠不足」の順に多い
- より日常的にケアをしている層に絞ると、「特に影響はない」が大幅に減少する一方、他の選択肢の割合が総じて増加しており、長時間にわたるケアが生活に影響を与えていることが窺える



■ 家族のケアに要する時間（平日１日あたり）と、生活への影響との関連性

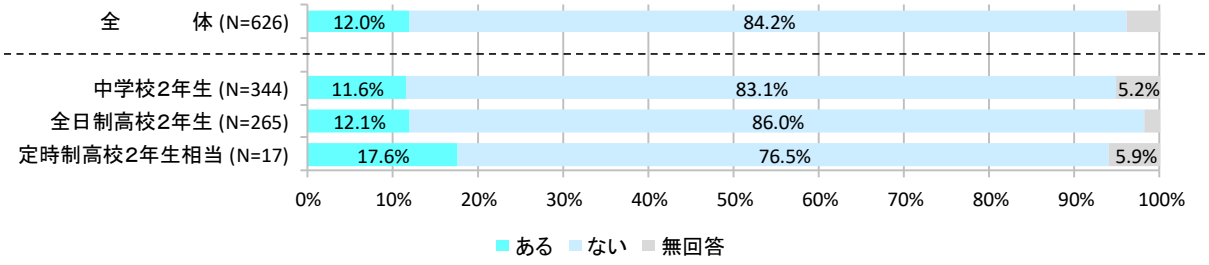
- 生活への影響について、「特に影響はない」以外の回答を「何らかの影響がある」として集約し、家族のケアに要する時間（平日１日あたり）との関連性を分析
- 「何らかの影響がある」に分類された総数は 164 人で、家族のケアをしている回答者（626 人）、アンケートの全回答者（14,237 人）に占める割合は、それぞれ 26.2%、1.2%
- ケアに要する時間が長いほど、生活への影響の生じている傾向が見受けられる



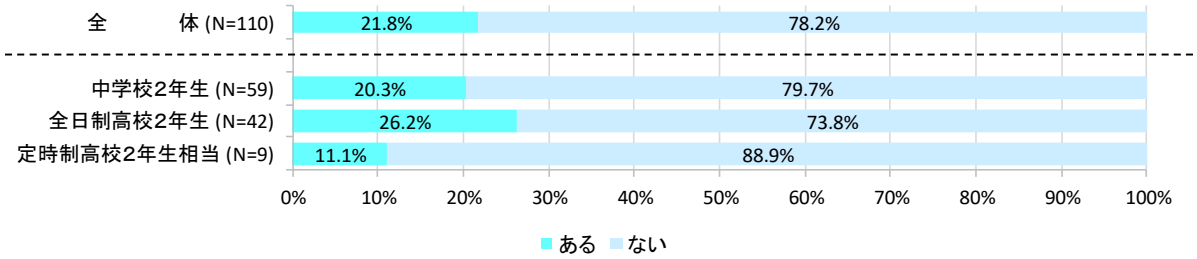
（８）ケアに関する悩みの相談経験

- 家族のケアに関する悩みについて、相談経験の「ある」方は、全国調査より低い割合（全国調査では、中学校２年生 21.6%、全日制高校２年生 23.5%、定時制高校２年生相当 32.3%）
- より日常的にケアをしている層に絞ると、相談経験の「ある」方は、中学校２年生と全日制高校２年生では全国調査と同程度の割合
- 相談経験がある場合の相談相手は、「家族」、「友人」、「学校の先生」の順となっているが、より日常的にケアをしている層では、「友人」が「家族」を上回る結果に

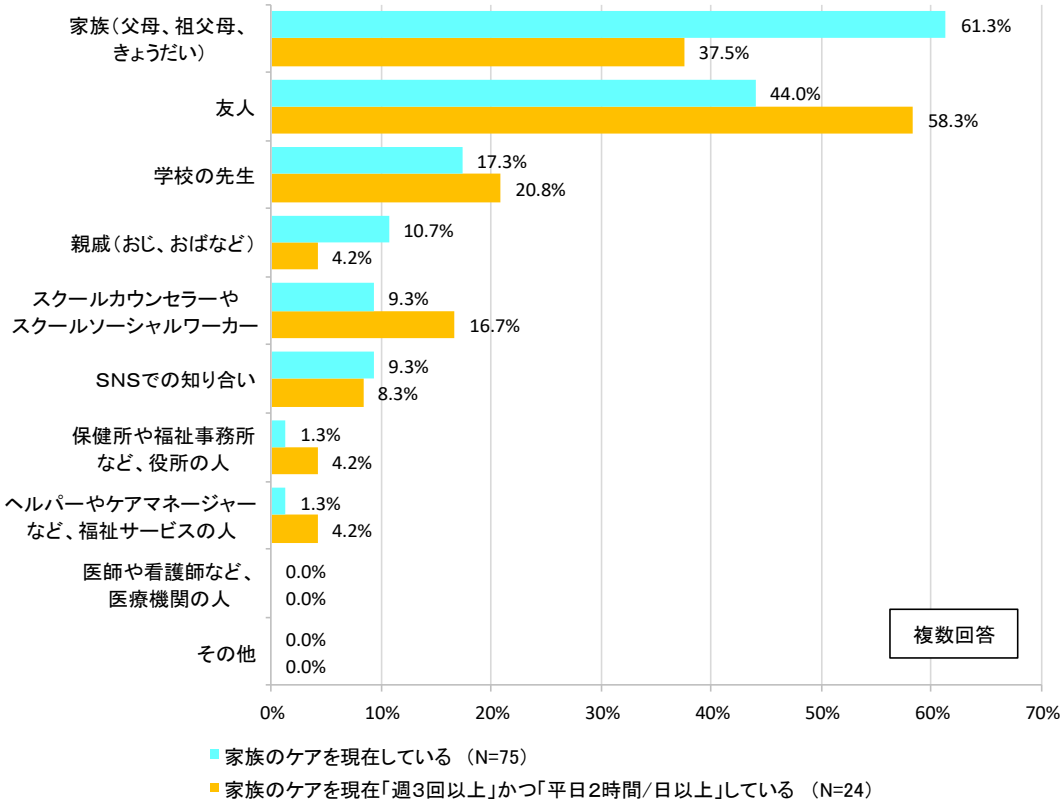
■ ケアに関する悩みの相談経験①（家族のケアをしている層全体）



■ ケアに関する悩みの相談経験②（より日常的にケアをしている層）



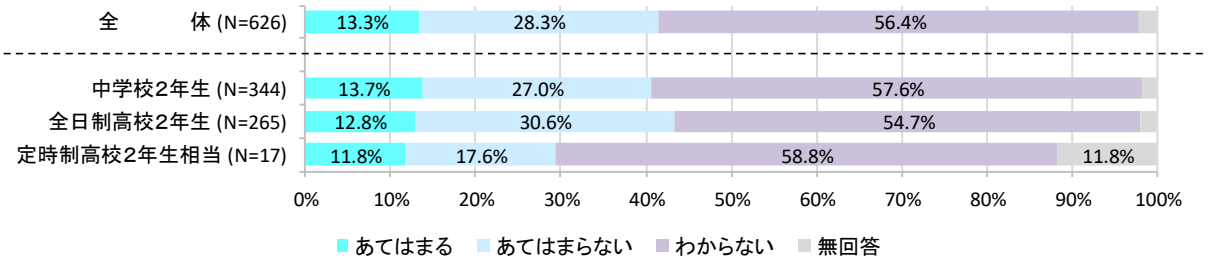
■ 相談経験がある場合における相談相手



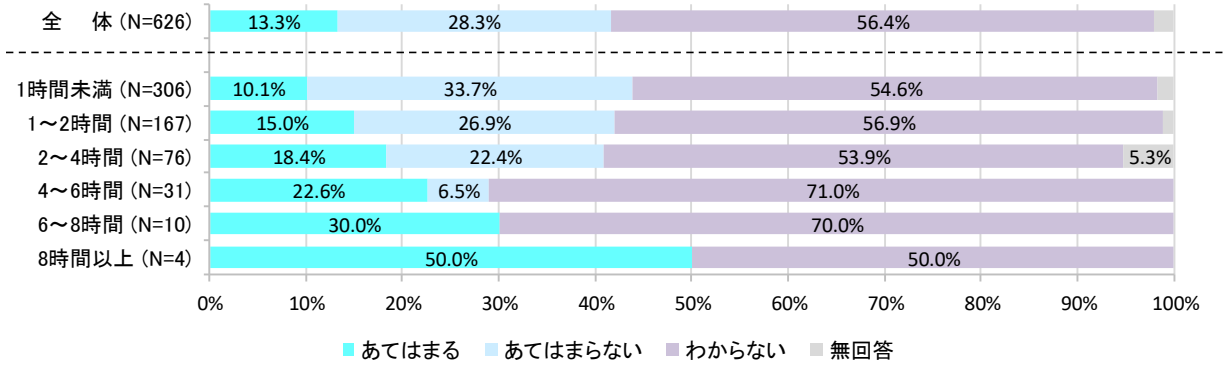
（９）「ヤングケアラー」に係る自己認識

- 自身がヤングケアラーにあてはまるかについて、「わからない」との回答が過半数を占める結果となり、ヤングケアラーについての確立された定義のないことによる影響が窺える
- ヤングケアラーに「あてはまる」と回答した総数は 83 人で、家族のケアをしている回答者（626 人）、アンケートの全回答者（14,237 人）に占める割合は、それぞれ 13.3%、0.6%
- ケアに要する時間が長いほど、「あてはまる」の増加する傾向が見受けられる

■ 「ヤングケアラー」に係る自己認識（学校種別）

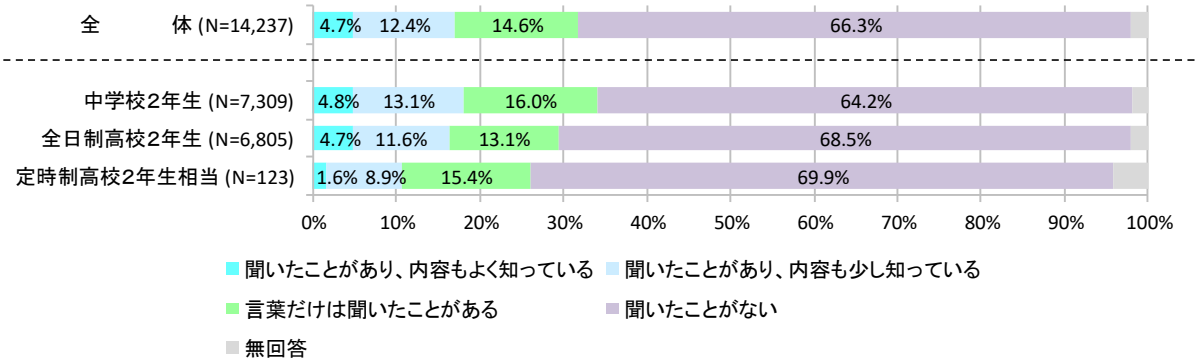


■ 家族のケアに要する時間（平日１日あたり）と、自己認識との関連性



(10)「ヤングケアラー」の認知度

- 「ヤングケアラー」の認知度については、全体では「聞いたことがない」が７割近くを占めており、各学校種においても同様の傾向
- 全国調査と比べると、「聞いたことがない」の割合は少ないが、調査時期が県の方が半年ほど遅く、それまでに各種メディアを通じ「ヤングケアラー」の周知が図られたためと考えられる（全国調査での「聞いたことがない」の割合は、中学校２年生 84.2%、全日制高校２年生 86.8%、定時制高校２年生相当 85.5%）



（参考）主な自由意見

（アンケートを通じての感想）

- ○ アンケートを通じ、ヤングケアラーについて初めて知ることができた。【同様の感想多数】
- ○ ヤングケアラーという言葉を知ることができてよかったし、そのような人を支えられるような、あたたかい環境が必要だと思った。
- ○ 家族のケアも大切だが、その子の進路や将来を犠牲にすることのないように、色々な人が協力し合える社会になるのが大切だと思った。
- ○ もしヤングケアラーが身近にいれば、できる限り相談にのってあげたりしたいと思った。
- ○ 今はまだ家族のケアをしていないが、将来的に親が高齢になっていくと、することになるであろうことなので、今からしっかり向き合わないといけないと思った。

（意見・要望等）

- ○ ヤングケアラーの定義をはっきりしてほしい。
- ○ ヤングケアラーと「家のお手伝い」の境界がわかりづらい。
- ○ 自分にとって負担でなく、また、自発的に行うケアであれば、ヤングケアラーにあてはまらないのか？
- ○ ヤングケアラーについて知らない人が多いと思うので、大人も含め、もっと知ってもらえるようにしたらよいと思う。
- ○ ヤングケアラーについて学ぶ機会を、小・中学校のときから設けてほしい。